

# AI問診の導入から5年が経過した実情

篠田 健太郎

(岐阜市民病院 医事課 医事係長、医療クラーク室)

医療経営士3級  
認定登録番号：  
32110015010002

## 【目的】

医療DXとうたわれて導入したAI問診(ユビー生成AI)について、検証結果を報告する。

## 【実施方法】

導入後約5年が経過した各現場で業務に要する時間やコストを現場調査した。

過去5年間に実施されたユビー問診の属性分析をした。

## 【実施期間】

実施データ：令和2年9月16日～令和7年6月30日、現場調査：令和7年7月

## 【考察・結果】

(結果)

紙面による問診には、①診察前の看護師による記入補助・内容確認(約2分)、②診察中の医師の確認、カルテ記載(約5分)、③問診票のスキャン(約1分)で患者一人に約8分の人的資源を必要としていた。人件費は、平均時給4,000円として、約533円と推計できる。

ユビー問診の導入により業務フローが見直され、①ユビー問診内容を電子カルテに転記(約4分)、②診察中の医師の確認、カルテ記載(約4分)と患者一人に必要な合計時間は変わりが無い。しかし、電子カルテへの転記は医師事務作業補助者が行っているため、平均時給が3,500円と下がり、推計人件費は約466円に減少した。ユビー問診の一日平均件数は60.5件であることから、単純計算で1

日当たり約33,500円、1年間(240日)で約800万円の導入効果があると試算される。これが導入業者のうたい文句となる。

当院では、セキュリティ重視の観点から電子カルテをインターネットと分離し、ユビー問診を手動で電子カルテに転記しているが、少しセキュリティを緩めれば①電子カルテ転記は省略できるため、その効果は約288万円増加する。

しかしながら、実際には初期投資費用、ユビーライセンス費、閉鎖回線費、ユビー問診の案内係や撮影されたお薬手帳の個人情報をもスキミングする人件費、電子カルテに転記するためのパソコン及びそのスペース・人員、タブレットの更新などさまざまな費用・資源を消費している。

(考察)

先述の「人件費」は、実際には固定費であるため、看護師に支払う給与が減るわけではない。むしろ、医療機関としてはライセンス費などの支出が増加している。換算した人件費が浮いただけであり、その時間を増収もしくは業務負担軽減などへ有効活用しなければ、導入効果は望めない。当院の場合、結果として外来看護師の業務が医師事務作業補助者へタスクシフトすることによる業務軽減、さらに医師事務作業補助者の増員による増収へ結びつけることができた。



◎しのだ・けんたろう

大学(物理学科)卒業後、岐阜県厚生連を経て岐阜市民病院へ転職。診療情報管理士、医療情報技師等の資格を取得し医事課、用度課、経営企画課の経験をベースに、業務の統合化に挑戦している。